

まちばの寺子屋

城西まちづくり協議会

活動の目的

津山市中心部の城西地区は、核家族化や少子高齢化が進み、学校が休みの時には特に子ども同士関わる機会が少ない。学力や学習意欲の低い子どもや複雑な家庭環境の基、安定した生活が送れていない子ども、感動体験の乏しい子どもなど、地域の子どもの取り巻く課題が顕著になってきた。そこで、課題を解決するために「子どもが地域で育つ学び場作り」を目指し、地域の住民が中心となり「まちばの寺子屋」事業を運営している。

活動の内容及び経過

毎週土曜日と夏休みを中心に、主に津山市城西公民館で、1回2時間のプログラムを60回開催。約600人の児童と、地域の方や美作大学生、津山東高等学校、津山工業高等学校の先生、生徒など約350人のスタッフが参加した。

勉強プログラムの日は、前半45分間は各自持って来た教材や小学校が提供してくれた教材に取り組み、残りの時間はスタッフと卓球やドッジボール、トランプ、カブラ、伝承遊びといった活動を行った。

勉強プログラムの他に月1回程度、「城西歴史探検」「フラワーアレンジメント」「お飾り作り」「草木染め」「書道教室」「絵画教室」「木工教室」「クッキング」「パソコン教室」「お雛様作り」「クリーン作戦」「飛行機作り」「粘土体験」「英語教室」「味噌作り」「体操教室」といった体験プログラムも行い、楽しみながら経験が広がるよう工夫をした。

地域のイベント「城西まるごと博物館フェア」のごみの分別ボランティア、「じば子の文化祭の餅つき」の餅米準備なども行い、地域のイベントに興味を持って参加できるようにもした。

スタッフは毎回始める前に打ち合わせを行い、子どもへの関わり方を共通理解しながら支援するようにした。またスタッフ研修や会議を行い、スタッフのスキルアップと、問題点についての改善に努めた。気になる子どもについては、小学校と連携を取り、学校と地域で見守るようにした。

活動の成果・効果

友達同士約束して来たり、寺子屋が終わった後も一緒に遊んだりなど、友達同士の関わりが増え、「おばちゃん、この問題教えて!」「大学生のお兄ちゃん、ドッジボールしようよ!」とスタッフに親しみを持つ子どもが増えた。高学年が低学年に勉強を教えたり、難しいところは手伝ったりなど同年齢だけでなく異年齢の交流も頻繁に見られた。最初は落ち着かなかった子どもも、回を重ねるうちに45分間集中して学習に取り組めるようになり、辞書を用いるなど



して、できるだけ自分で解いてみようとする学習意欲も出てきた。遊びの中のルールを自分たちで話し合ったり決めて、低学年も楽しく遊べるようなルールを考えたりなど、遊びの中での育ちも見られた。

保護者へのアンケートから、「家庭ではできない経験ができてありがたい」「子どもが喜んで参加している」「家でも寺子屋でしたことを話して聞かせてくれる」などの感想が寄せられた。学校からは「生き生きと積極的に活動することが増えた」「学習意欲が向上した」「休み明けも落ち着いて学校生活が送れている」など育ちが感じられる言葉をいただいた。スタッフからも、「子どもと関わるのは楽しい」「子どもから元気がもらえる」「自分も勉強になった」などの前向きな嬉しい声も聞かれ、地域の見守り力の向上も感じた。

今後の課題と問題点

学習支援の必要な子どもや、不安定な家庭生活の中、人との関わりや感動体験が不十分な子どもの参加が少ない。地域スタッフの高齢化や資金の調達など、今後この事業を続けていく上では大きな課題がある。

- 代表者：高須昌明 ●所在地：津山市小田中
- TEL：0868-31-0102 ●E-MAIL：kou-jousai@mx1.tvt.ne.jp
- URL：http://www.jousai-machidukuri.com/
- 設立年：2015年 ●メンバー数：約20名